



国際極年 2007-2008 国内委員会ニュースレター

IPY2007-2008 国内委員会事務局 〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10 国立極地研究所内
電話: 03-3962-5690 FAX: 03-3962-5701 e-mail: hajime@pmg.nipr.ac.jp

目次

1. はじめに.....	1
2. IPY 計画作成へ向けての流れ.....	2
3. IPY 計画への日本からの提案.....	3
4. 「IPY 活動提案」作成・提出手順.....	3
5. 関連資料の入手について.....	3
別表1. 群とそれに属する日本から提出したEOI.....	4
別表2. 日本から提出したEOI一覧.....	5

1. はじめに

国際極年はいよいよ2年後にせまりました。それに間に合うように、全体の研究計画を急いで作り上げなければなりません。今号のニュースレターは、研究計画作成についての具体的な情報を中心としています。堅い話です。一般読者には、退屈かもしれません。

もし、「大きな国際研究計画はどのようにして、作り上げられていくのであろう？」という興味をお持ちでしたら、第三者として読んで、おもしろいかもしれません、が。

一方、説明をわかりやすくしたために直接の関係者には冗長の感があるかもしれません。二兎を追っています。ご容赦を。

機関などの略記をあげて、非公式の解説を付けておきます。記事を読む際に参考してください。

IPY 国際極年

今回「第4回」という冠が外され、「2007-2008(年開催の)」に変更されています。第3回と呼びたい人がいて、收拾がつかないためです。

ICSU 国際科学会議

各国の学術会議を束ねる元締めです。

WMO 世界気象機関

日本からのメンバーが気象庁であるように、立場は官です。民の代表であるICSUと対をなしています。

JC 2007-2008年国際極年ICSU・WMO共同実行委員会
14名(日本からは藤井理行氏)の正委員と5名の官職委員からなるIPYの推進機関です。

IPO (IPY)国際計画事務局

JCが企画・判断をする意思決定機関なのに対して、実務を司る部署です。ケンブリッジに常設され、専任の職員を置いています。

EOI (IPY参加)意思表明書

1月に締め切りがあった、「概略研究計画」のことです。

クラスター 群

多数のEOIのうち、類似のものを集めたEOIの集団です。通常、1つの群に複数のEOIが含まれます。学際的なEOIには、複数のクラスターに属するものもあります。

リード・プロジェクト 主導計画

1つの群を統率すべき、1つあるいは少数のEOIです。

コア・プロジェクト 中核計画

各群を整理して大計画を作成しようという構想の基に、群が整理統合されて完成する個々の計画を中核計画と呼びます。IPY研究計画の全体は複数(少数)の中核計画とその他の関連計画(おおむね小計画)からなります。

2. IPY 計画作成へ向けての流れ

2.1. JCは、2月末までに、869のEOIを受理した。その後もEOIを受け取っているため、現在EOIの総数は900件を超える。ただし以下の統計は869件についてのものである。

EOI はエジプト、ギリシャ、マレーシアなど極地研究に実績の少ない国を含む36カ国から提出された。合衆国からのEOIが全体の3分の1を占める。カナダ(175)の他、英国・デンマーク・フランス・ドイツ・ノルウェー・ロシアが40以上のEOIを提出しており、各国の提出数には大きなばらつきがある。日本からの提出は29件である。

463件が北極研究、南極研究と両極研究がそれぞれ159件、136件である。最低限の地域バランスは取れているとみなすことができる。残りの88件は(極地との対比研究のために)極域以外を調査対象としている。

学術分野的には、比較的良くバランスが取れている。前回(2003年12月)に比較して、社会科学のEOIが増加していることに注目したい。

2.2. すべてのEOIをJC委員の2人または3人が査読し、評価を与えた。評価は「枠組み」(注*)記載の認定基準に基づいておこなわれた。すなわち、学術的な計画内容については、資金提供者が審査するものとして、JCでは検討していない。

注*「国際極年 2007-2008 の枠組み」はIPY計画グループが2004年秋の解散にあたりICSUとWMOへ提出したいわば「最終報告書」である。今後もしばしば参照されると考えて、日本国内委員会では、これを全訳し和文の冊子を作成した。国内委員会委員、昨年夏あるいは今回EOIを提出した方々へは、郵送する。それ以外の方へも、また2部以上必要な方へも、要請により送付するので、事務局まで連絡されたい。***注終**

評価は次の4段階とした。

1級 すべての認定基準を満たしている。

2級 若干の改定により認定基準を満たす。

3級 大幅な改定により認定基準を満たすことが不可能ではない。

級外 IPY計画としてふさわしくない。

以後、1～3級のEOIだけを作業の対象とする。もともと、級外と評価されたEOIの数はごく少数である。(各級に

評価されたEOIの数は公表されていない。)

2.3. EOIを、学術分野により大別し、それぞれをさらにいくつかの群に分けた。群の数は55であり、「少数の」中核計画と呼ぶのは苦しい感じを受ける。それぞれの群には、さらに南極、北極、両極などに細分類されているものもあり、もしそれぞれが独立して中核計画を作成するならば、中核計画の数は最大87になりうる。

別表1に、群を列挙する。細分類は挙げていない。群に付した番号は、便宜上国内委員会がつけたものである。群の名称の後に記入した3桁の数字は、当該群に所属する、日本からのEOI番号である(別表2参照)。番号の前のLは主導提案を示す。

2.4. 各群のEOI提出者は、主導計画提案者を中心として協議し、1つにまとめた研究計画(以下「本計画書」と呼ぶ)を作成するようにJCから指示を受けている。1つの計画が、複数の部分計画から構成されていても差し支えはない。

JCが仮に分類した群が、自分のEOIにそぐわないと提出者が判断すれば、別の群に移ることはかまわない。(もちろん、移動先の群のEOI提出者一同、特に主導計画提案者の同意を得る必要がある。)また、いずれの群にも属さないと思えば、新しい群を設置することも可能であるが、JCの了承を得る必要がある。

まとまった本計画書(中核計画候補)をJCに提出する。その詳細は別記するが、締め切りは6月30日である。

2.5. JCは8月10日を目処に、本計画書を審査し、中核計画を選定する。ここでも、選考は「枠組み」記載の認定基準に基づいておこなわれる。学術的な計画内容については、審査されない。

審査結果は8月中旬に提出者に通知される。中核計画として採用された計画は、資金準備活動などの際に、公認IPY計画を称することができる。

並行して、新規のEOIを2006年末まで受け付ける。この件については、8月に、もう少し具体的な指示がJCから与えられることになっている。いずれにしろ、遅延提出者は、既提出EOIと重複がないかどうかを、事前にIPOへ確認することを勧められている。

3. IPY 計画への日本からの提案

日本の研究者が国内委員会を通して JC へ提出した EOI を別表2に示す。群(Cluster)の欄に別表1で付した

群番号を記載した。群番号の前のLは主導提案を示す。

4. 「IPY 活動提案」作成・提出手順

4. 1. 各群のEOI提出者は、主導計画提案者を中心として協議を重ね、群として1つにまとめた大きな計画書を作成する。あわせて、群の(中核計画の)運営委員会を設置する。計画書の作成作業にあたっては、

a) 主導計画提案者は、群のまとめ役として機能し、計画書を執筆する。一部または、全部の執筆を他の研究分担者に委託してもかまわない。

b) 群の主導でないEOI提出者およびその研究分担者は、計画書作成の討議に加わり、主導計画提案者に執筆材料を提供する。また、依頼により、主導計画提案者の一部または全部の計画書執筆作業を代行する。

4. 2. 計画書はWEBに直接書き込んで提出する。すなわち、いずれの国の国内委員会も経由しない。中核計画が必然的に真に国際的な性格を持ち、国への所属が不明確であることから、当然の指示とも言える。

ただ、WEB上の受付ページは現在まだ存在しない。時折、WEBをチェックされたい。締め切り(6月30日)には余裕を持って、ページが表示されるものと想定している。

4. 3. 下書き用紙(Word)が用意されている。これは、WEBへ打ち込む際に切り貼り作業を容易にするために準備されたもので、そのまま提出するものではない(前回EOIの提出との差異!)。分量・内容ともにEOI用紙とあまり変わっていないが、次の2点に留意されたい。

(1)「枠組み」記載の認定基準への適合性については、前回(EOI)以後今回までの期間に、十分な検討が進められていることを前提に、より詳細な記述が求められている。

(2)計画が大型化することを考慮し、研究代表者(PI)のほか、2名までの幹事(maincontact, PIが兼ねてもよい)を含む最大37名の研究分担者氏名の記載を可能としている。

5. 関連資料の入手について

(a) 英文資料

IPY2007-2008 Framework,

all EOIs submitted,

EOI Clustering,

Report of Open Consultative Forum (Paris, March 10-11 2005),

Guidance for Preparing Fuller Proposals for June 30, 2005,

Draft Preparation Form for Proposed IPY Activity

など、本号のニュースレターに参照した資料の大部分は、

IPYのHPからダウンロードできる。

www.ipy.org

何らかの事情により、ダウンロードするよりも事務局からコピーを入手することを好まれる方は、請求されたい。

(b) 和文冊子

「国際極年 2007-2008 の枠組み」については、必要な方に郵送するので、事務局まで請求されたい。

別表1. 群とそれに属する日本から提出したEOI

EOI 番号の前の文字 L は当該群での主導計画であることを示す。

<p>1 グループ1</p> <p>101 海洋生物変動 102 陸上陸水生物変動と環境 L429 103 極域の生活:形式、発展、適応 827 104 自然および人類学的変化の下での生活: ストレス、反応、適応 L427, L390, 794 105 移住:侵略、発展、衰退 106 自然資源:活用、管理、保全</p>	<p>6 グループ6</p> <p>601 変化:適応と脆弱さ、人類-環境複合系 602 北方資源 603 新しい危機とストレス 604 推移と境界 605 激変-社会の反応 606 局地的な、先住民の観点 607 IPY 遺産の保全 608 科学のインフラストラクチャー</p>
<p>2 グループ2</p> <p>201 陸上雪氷圏 202 永久凍土 836 203 氷河、氷帽 393, 428 204 氷河下湖 205 海氷、氷山 206 古気候(氷コア) 207 南極氷床 823, 424 208 グリーンランド氷床 209 極域氷化の発展 210 積雪の物性 211 氷河地形 212 観測網、観測所 213 複数群横断計画</p>	<p>7 グループ「宇宙関連」</p> <p>701 ICESTAR/IHY 計画 352, 355, 422, 550 702 IPY 天文学 703 IPY 宇宙観測 368 704 IPYSPARC 計画</p>
<p>3 グループ3</p> <p>301 古気候 302 地球物理学観測所 400 303 プレート・テクトニクスおよび関連事象 395 304 氷下探査、大規模踏査、地球の歴史 795 305 資源</p>	<p>8 グループ「データ」</p> <p>801 IPY データ 802 EOC 関連データ</p>
<p>4 グループ4</p> <p>401 雲、エアロゾール、大気化学 833, 900 402 複合分野観測システム 544, 787, 430 403 気象と気候(天気予報の向上を含む) 810 404 極域と中緯度の相関(気候変動モードを含む) 405 水循環と淡水収支 414 406 古気候と気候資料の編纂 407 物理環境の変化・変動に対する生態系の反応</p>	<p>9 グループ「教育とアウトリーチ」</p> <p>901 教育 902 歴史 903 出版 904 社会科学 905 展示、通信 906 政策 907 その他</p>
<p>5 グループ5</p> <p>501 海洋循環 832, 806 502 生物地球化学と生態系 503 海岸と沿海</p>	<p>10 グループ「IPY 以降も活用できる大規模設備設置計画など」</p> <p>これらの EOI を特定の群に所属させることには意味がない。独自に計画を進めるべきである。 001-012 個別のEOIがそれぞれ単独で挙げられているが、省略する。 そのうち、001は日本のEOI(123)である。</p>

別表2. 日本から提出したEOI一覧

JC-Nr.	Cluster	Principal Investigator	Institution	Short Title
123	1	Fujii, Yoshiyuki	NIPR	International Stations in East Antarctica
352	701	Murayama, Yasuhiro	NI Inf. & Comm. Tech.	Alaska Project
355	701	Sato, Kaoru	NIPR	Antarctic MST/IS radar
368	703	Hayasaka, Hiroshi	Hokkaido U	BFFC
390	L104	Sweda, Tatsuo	Ehime U	COCO GRANDE
393	203	Takahashi, Shuhei	Kitami IT	Glacier in Suntar-Khayata, East Siberia
395	303	Motoyoshi, Yoichi	NIPR	Gondwana Evolution from Antarctica
399	302	Kanao, Masaki	NIPR	Developing Plans for Antarctic Seismic Deployments
400	302	Kanao, Masaki	NIPR	Developing Plans for Seismic Deployments in Eurasian Arctic
414	405	Ohata, Tetsuo	JAMSTEC	HydroArctic
422	701	Kadokura, Akira	NIPR	Interhemispheric Study on Auroral Phenomena
424	207	Fujii, Yoshiyuki	NIPR	Japanese-Swedish Joint Antarctic Traverses
427	L104	Kanda, Hiroshi	NIPR	MAVCEC
428	203	Takahashi, Shuhei	Kitami IT	McCall Project for IPY
429	L102	Naganuma, Takeshi	Hiroshima U	MicroPoles
430	402	Fukunishi, Hiroshi	Tohoku U	Monitoring of the Global Environmental Change in the Antarctic
544	402	Koike, Toshio	U Tokyo	CEOP
550	701	Aso, Takehiko	NIPR	Radar studies of the Arctic and Antarctic middle/upper atmosphere
787	402	Tanaka, Hiroshi	U Tsukuba	Vortex Chaser
794	104	Kanda, Hiroshi	NIPR	Tundracycle
795	304	Kojima, Hideyasu	NIPR	Search for meteorites in DML
806	501	Fukuchi, Mitsuo	NIPR	STAGE
810	403	Kanda, Hiroshi	NIPR	Super Station
823	207	Omura, Makoto	Kochi Women U	SAR monitoring of Antarctic coastlines
827	103	Kushida, Keiji	Hokkaido U	Remote sensing of terrestrial carbon budget
832	501	Shimada, Koji	JAMSTEC	PACE
833	401	Sato, Kaoru	NIPR	Ozone hole observation by ozonesondes and FTIR at Syowa Station
836	202	Harada, Koishiro	Miyagi Agricultural C	Permafrost response
900	401	Fukunishi, Hiroshi	Tohoku U	Role of the arctic atmosphere in global change